

新書紹介 : Zadeh夫人による”My Life and Travels with the Father of Fuzzy Logic” : TSI Press(P. O. Box 14126, Albuquerque, NM 87191-4126 USA), ISBN #1-889335-05-3

高木, 英行
九州芸術工科大学

<https://hdl.handle.net/2324/4488424>

出版情報 : 日本ファジィ学会誌. 10 (5), pp. 842-843, 1998. 日本ファジィ学会
バージョン :
権利関係 :



新書紹介

Zadeh 夫人による “My Life and Travels with the Father of Fuzzy Logic”[†]

高木 英行*

Zadeh さんがいつどこで生まれ、いつアメリカに渡って来たか、そして有名な趣味を知っている人は、まあまあ個人的に関心のある人であろう。しかし、ある程度の付き合いがある人でも、Zadeh 夫妻の少年期少女期、青年期をどのような国々でどのように過ごし、アメリカに渡ってからの生活を詳しく知っている人は少ないであろう。ましてや、20 代前半で現在のような毛の生え具合になったとか、結婚指輪なんてブルジョア趣味だと買ってくれなかつたので、結婚指輪をしていない私に男が言い寄ってきても知らないわよ、と著者の Fay さんが買わせた、などを知っている人は、まあ希であろう。

プライベートの暴露本として本書を紹介しているわけではないので誤解がないよう願うが、Zadeh さんが、今やこれだけ有名になったにも関わらず、あまり個人の側面が知られていないのはなぜだろう。ファジィの学術書・技術書が世の中に多数出版されたにも関わらず、これほど実用になった技術を生み出したその人を扱った本がほとんどないということは、ある意味では不思議でもある。Fay さんが本書を出版した理由の 1 つがここにある。彼女は、「夫は、多くの趣味、いろいろなことへの興味、秘めた情熱の持ち主であるだけでなく、変わった個性の持ち主でもありますので、彼の背景や人生一般を知ってもらえば、より一層彼に興味を持っていただき親しみやすくなると考えたわけです」と言う。

[†] TSI Press (P.O.Box 14126, Albuquerque, NM 87191-4126 USA), ISBN # 1-889335-05-3, 價格 USD 25.00

* Hideyuki TAKAGI
九州芸術工科大学
Kyusyu Institute of Design

本書は 36 章から成るが、内容的には 3 つに分かれる。生い立ち、出会い、新生活などの初期の部分と、本書の大部分を占める、二人で世界各国を旅行した時の回想やその過程での二人の知り合いについての 30 章ほどの旅行記の部分と、そして Zadeh さん好物の料理方法を含むエピローグとして最後の 3 章とある。また旅行記ではないが、Fay さんがニューヨークで強盗に銃を突きつけられ、手足を縛られさるぐつわを噛まされた、怖い話も 21 章にある。旅行記では 1997 年の最新部分まであり、日本関係では、1963 年の世界一周旅行と、本田賞 (1989 年) と大川賞 (1996 年) 受賞のための来日の章がある。熊谷教授、高木(友)助教授、筆者や、本田賞と大川賞関係者などをはじめとする日本人も登場する他、シンガポールのホテルでは、「Lotfi というのは Mr. Nagano か」と夜の女性が部屋を間違えて来たという恥ずかしい話もある。写真も 100 枚ほどが使われており、特に皆があまり知らないと思われる Zadeh さんの逸話がちりばめられた初めの頃の 3 章には 17 枚が挿入されている。そう、黒々とした髪の糺な 19 歳の Zadeh 少年も。

バークレーでの客員研究員経験者のような、Fay さんの人柄をよく知っておられる方は、上品でありながら茶目っ氣もあり、知性溢れる話術で人を楽しませてくれながら、意見をする時には自己主張をされる彼女の強さを感じていると思う。例えば、Zadeh さんのオーディオ趣味はカメラと同様有名であるが、28 個のスピーカーセットをリビング・ダイニングに入れて光が遮るようになってからはさすがに堪忍袋の緒が切れて、家を飛び出しモーテルへ一晩家出して片づけさせるなどの荒技も行っている。(実はその恩恵に与った筆者の自

宅には、この時に格安で入手した山水のパワーアンプと YAMAHA のモニタスピーカがある。)

著者の Fay さんは、1920 年の横浜生まれで、3 歳の時に関東大震災に遭遇。ショックを受けた彼女の母親に連れられて当時の満州のハルピンへ引っ越し、ロシア環境下で 6 年間を過ごす。その後の教育のために 1929 年にベルリンに移るも、ヒットラーの台頭を嫌って 1933 年にイランへ移動。移ってまもなく、ここで妹さんが病気になり、Fanny Asker Zadeh という名の小児科女医を人に勧められて訪問。ここの息子が、1 つ年下の Zadeh さんである。

ラトビア出身の彼女の両親は教育熱心で、ばあやや住み込みの家庭教師を雇い、子供の教育のために国を渡るなど、恵まれた教育環境で育った。18 歳になって、彼女を米国に送ることを決めたのも両親である。この環境のおかげで、彼女は、英語、ロシア語、ドイツ語、フランス語、ペルシャ語を話すことができる。後年彼女が覚えた日本語の発音はたどたどしいが、3 歳までに覚えた当時の歌を今聞くと、まさにネイティブの日本語で驚かされる。彼女はこの 5 ヶ国語を操り、社交でのホステス役を務め、そして趣味の料理で人をもてなす。この本を読んでいると、まさにその彼女の語り口調が聞こえてくるから不思議だ。技術書と違って、彼女を知っている人が間に入らないと、この本の日本語訳は難しいかもしれない。

この本では、Zadeh さんは強烈なしかも一風変わった個性の持ち主であることを強調していて、暗に、現在のファジィを産み育て上げられたのは

そのためであると語っているように感じる。長年のファジィへの反発にもめげずに今日に至られた事実からは十分頷けるが、案外、そのような Zadeh さんを制御してきたのが彼女の才ではなかったのだろうか、とこの本を読んでいて思い直してしまう次第である。

この本は、お二人の長年の友人である Mo Jamshidi 教授の勧めがあって実ったものである。Fay さんを説得するため、出版社と掛け合って、この本の収益をファジィシステム、制御システム、ソフトコンピューティングなどの分野の米国とイランの大学で学ぶ学生たちのための基金設立に当てるとの条件を飲んでもらったのである。Fay さんもそういう教育的主旨ならばと、この本が出来上がった次第である。したがって彼女には印税がまったく入らない。Jamshidi 教授はこの基金を集めるため、この本を各国語に翻訳いただける方の協力を願っておられる。

この本は TSI Press からこの 5 月に出版されたばかりである。購入希望者は、書名、冊数、氏名、配達先、主要クレジットカード番号を添えて、直接 js@roadrunner.com、FAX +1-505-291-0013、または脚注の私書箱へ申し込まれたい。

[問い合わせ先]

〒 815-8540
福岡市南区塩原 4 丁目 9-1
九州芸術工科大学 音響設計学科
高木 英行
takagi@kyushu-id.ac.jp
TEL&FAX : 092-553-4555